



令和8年1月29日

# 福岡県内経済情勢報告

令和8年1月

財務省福岡財務支局

[問い合わせ先]

財務省 福岡財務支局 経済調査課

電話 092-411-9038

# 福岡県内経済情勢報告

## 1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	➡

(注) 8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、回復のテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	回復のテンポが緩やかになっている	回復のテンポが緩やかになっている	➡
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡

設備投資	7年度は増加見込み	7年度は増加見込み	➡
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は増益見込み	➡
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	➡
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	➡

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復のテンポが緩やかになっている」

百貨店販売は、客単価の低下から免税売上が低迷しているものの、国内富裕層のラグジュアリー需要は堅調で、おおむね横ばいとなっている。スーパー販売は、価格転嫁の浸透がみられるものの、物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりなどにより、おおむね横ばいとなっている。コンビニエンスストア販売は、都心部におけるインバウンド需要等により前年を上回っている。乗用車販売は、小型車は前年を上回っているものの、普通車、軽乗用車は前年を下回り、全体としては前年を下回っている。ドラッグストア販売は、食料品が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売は、前年を上回っている。ホームセンター販売は、おおむね横ばいとなっている。旅行取扱高は、物価高の影響があるものの旅行需要の回復がみられ、前年を上回っている。

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、昨年度同様の水準で、横ばい圏内で推移している。はん用・生産用機械は、底堅い自動化・省力化等に向けた投資需要により、足下持ち直しつつある。電子部品・デバイスは、在庫調整の進展に加え、一部で需要の回復がみられるなど、緩やかに持ち直している。鉄鋼は、建築資材の需要等が伸び悩んでおり、横ばい圏内で推移している。

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっているものの、足下では低下している。新規求人数は、前年を下回っている。企業の人手不足感は、高い状況が続いている。

### ■ 設備投資 「7年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

7年度は、製造業は前年比34.4%の増加見込み、非製造業は同5.7%の減少見込みとなっており、全産業では同5.0%の増加見込みとなっている。

### ■ 企業収益 「7年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

7年度は、製造業は前年比55.4%の増益見込み、非製造業は同0.5%の減益見込みとなっており、全産業では同13.7%の増益見込みとなっている。

### ■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、持家、賃家、分譲住宅及び給与住宅が減少していることから前年を下回っている。

### ■ 輸出 「前年を上回っている」

輸出(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を下回っている。

#### (その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(7年10-12月期)の景況判断BSIでみると、7年10-12月期は「上昇」超となっている。先行きについては、8年1-3月期は「上昇」超の見通しとなっている。